

京都市立養正小学校学校ニュース 学校評価 平成26年10月20日

校長 杉森 德行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

学校教育目標

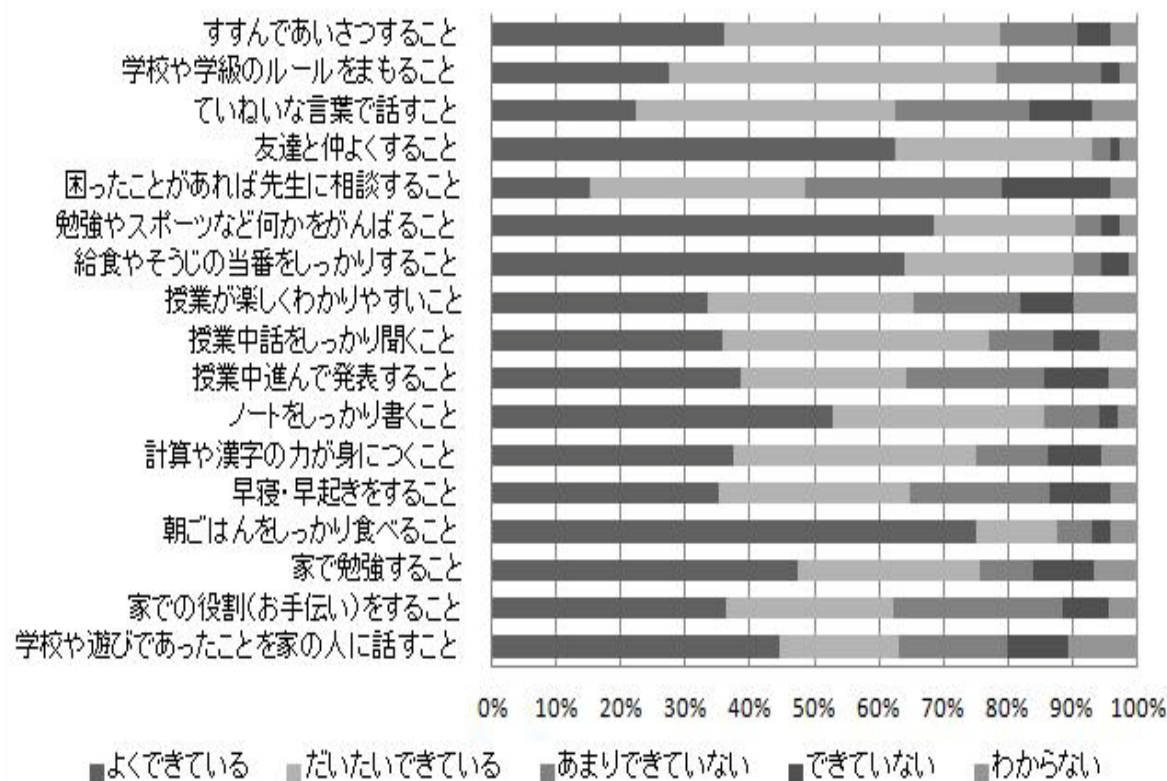
「一人一人の子どものもつ良さを最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

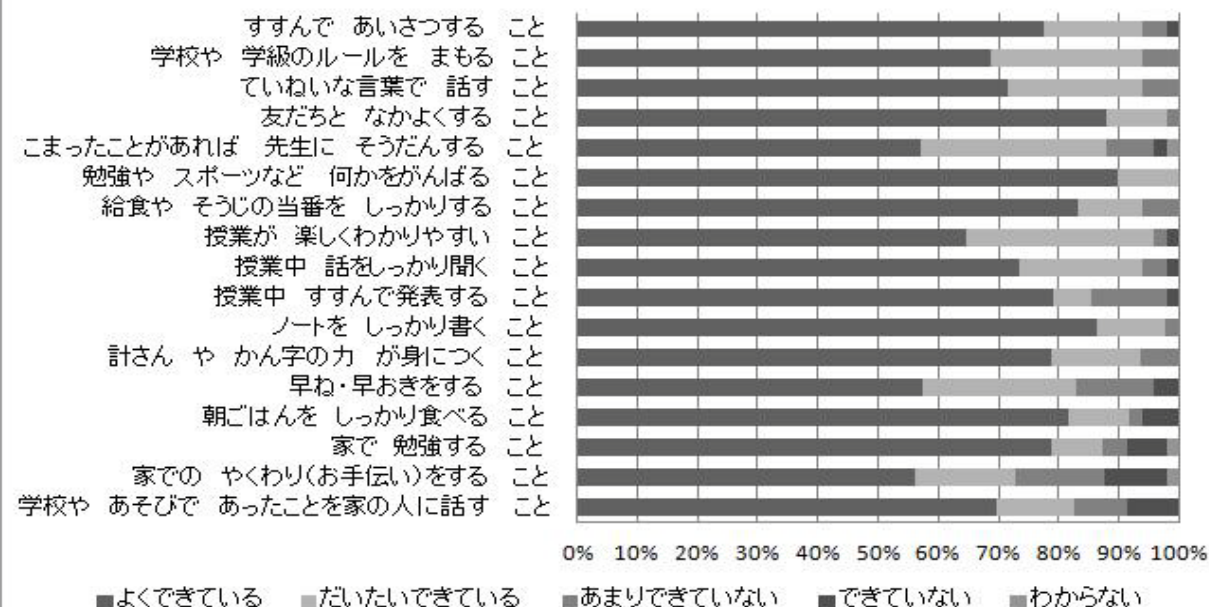
7月に、全校児童（低学年〈1, 2, 3年〉、高学年〈4, 5, 6年〉に分類）、保護者の方に学校の評価のアンケートをしていただきました。その結果を、学校運営協議会で話し合い、考察としてまとめましたのでお知らせします。

考察につきましては、この学校ニュースやホームページに示しました前期のアンケート結果をみていただき、ご意見がございましたら学校にお知らせください。各アンケートの重要度などについては、紙面の都合上、ホームページ上での公開とさせていただきます。

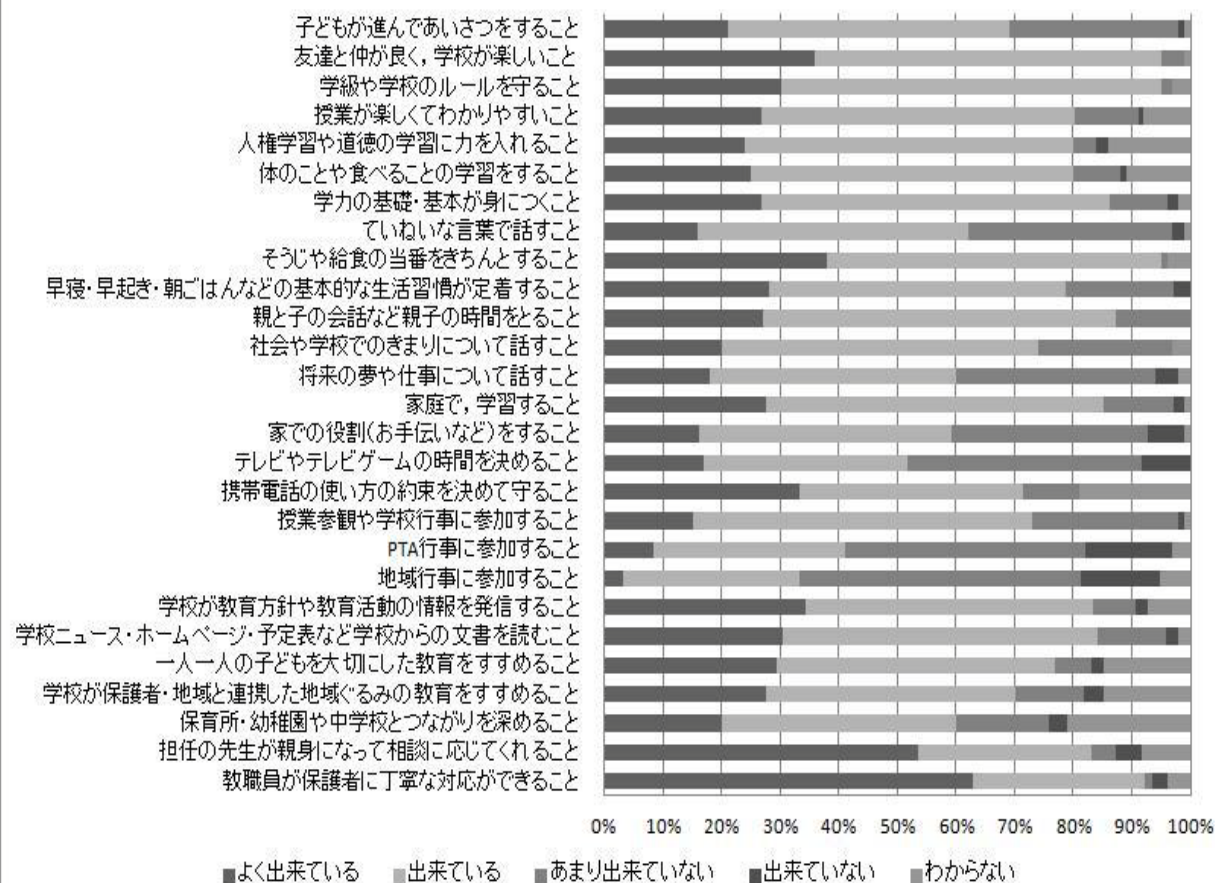
H26学校評価 高学年児童 実現度



H26学校評価 低学年 実現度



H26学校評価 保護者 実現度



考 察（アンケート結果と学校運営協議会理事会での話し合いより）

保護者の重要度に対する実現度が低い項目は、（※以後、ニーズ度が高いと表現）「子どもが進んであいさつをすること」「ていねいな言葉で話すこと」の二つでした。とくに、「ていねいな言葉で話すこと」は実現度が大変低く「よく出来ている」の回答率が約１５％、「出来ている」を合わせても６０％ほどでした。子どもたちの回答率は「ていねいな言葉ではなすこと」に「重要である」「やや重要である」が９０％を超えています。しかし、高学年の子どもたちの「よくできている」「だいたいできている」の回答率は６０％であり、実現度は高いとはいえません。学校では、子どもたちの教職員に対する言葉づかいは、良くなっていると感じられます。しかし、保護者、子どもと、いずれも実現度が低いのは、子ども同士で話すときの言葉づかいに原因があるのかもしれない。学校では、授業中はもちろん、それ以外の場面でも友だちを傷つけるような言葉づかいを見逃さず丁寧に指導いく必要があると考えています。

保護者、高学年の子どもの回答では「子どもが進んであいさつをすること」は、過去２年間であまり変化が見られません。しかし、低学年の子どもたちは、２５年度後期と比較すると、実現度の「よく出来ている」の回答率が６０％から８０％近くへと上昇しています。また、高学年低学年いずれも重要度としては高い数値を示しています。

子どもたちは、「あいさつ」も「言葉づかい」も大切なことであると思っています。しかし、実際に実現度が低いのは、「わかってはいるが行動に移せない。」「方法がわからない。」といったことが考えられます。素直な自分を表現できる仲間作りを進めることやハートフルタイムでソーシャルスキルを身につけることを継続して行っていく必要があると考えます。

保護者の「授業が楽しくてわかりやすいこと」「学力の基礎基本が身につくこと」と、子どもの「授業が楽しくてわかりやすいこと」「計算や漢字の力が身につくこと」の重要度はいずれも９０％以上と高い数値でした。保護者の実現度では「授業がわかりやすいこと」の実現度は８０％と高い数値を示しており、参観を通して学校がわかりやすく楽しい授業を工夫していることに理解していただいていると考えられます。しかし、残りの２０％の保護者や子どもの実現度は、高学年で「授業が楽しくてわかりやすいこと」に対して低い数値を示しており、学校はすべての子どもにとって、よりわかりやすい授業を実現するために、今後も努力を続けていく必要があると考えています。

「計算や漢字の力が身につくこと」は、子どもたちのニーズ度の割合も高くなっています。基礎基本の学習とは、計算問題の繰り返しや漢字の書き取りといった反復練習が必要な学習が多いといえます。子どもが根気強く取り組めるように、学校と家庭の両方で子どもの学習を見ていくことが大切であると言えます。基礎基本の学習を「家庭での子どもについて」のいくつかの項目と合わせて考えると、「家庭で学習すること」「テレビやテレビゲームの時間を決めること」「携帯電話の使い方の約束を決めて守ること」が関わってきます。保護者や子どもの「家庭で学習すること」の実現度からほとんどの子どもたちが家庭で学習をしていることが分かります。今の数値が示す以上に家庭学習を定着させるためには、「テレビやテレビゲームの時間を決めること」「携帯電話の使い方の約束を決めて守ること」が大きく関わってくると考えます。どちらの項目もほとんどの保護者が重要と考えているにもかかわらず、実現度は「テレビやテレビゲーム」は５０％

ほど「携帯電話」は７０％ほどでした。小学校から中学校へかけて、テレビやテレビゲームからスマホや携帯電話に移行していくことは予想されることです。スマホや携帯電話を使用する時間が増えると、その分学習時間は減っていくと考えられます。テレビ、テレビゲームの時間やスマホ、携帯電話の使い方の約束を子どもと一緒に決めていくことが大切だと言えます。

子どもの生活や学校の様子で気になるのが、「学校や学級のルールを守ること」です。保護者も高学年の子どもたちも重要度は、「やや重要である」を合わせると１００％になります。しかし、高学年の実現度は「よくできている」「だいたいできている」を合わせて８０％を切ってしまいます。「よくできている」と回答しているのは、３０％に届きません。ルールを守るという視点で学校全体を見たとき、雰囲気は悪くないと感じます。全校で集まったときなど、全校児童が静かに話を聴くことができます。授業中は、ある程度の緊張感を保ちながら良い雰囲気で学習してます。休み時間の後もチャイムの合図で切り替え行動できています。アンケートを受ける際に、学校のルールとして子どもたちが思い浮かべるのは、「廊下は歩く。」「学校に必要なものは持ってこない。」など、子どもによって様々であると考えます。子どもによっては、「一度廊下を走ったことがあるから」というように自己評価が厳しい場合も考えられます。ルールとは、集団の中、社会の中で生まれるものです。ルールのほとんどが、周りの人を思いやることに関わっています。学校という大きな集団の中で、一人一人が約束事を守っていくには、一つ一つの約束の意味を考え、「ちょっとしたこと」と思う約束事であっても守っていくことが大切です。学校全体としては、大体ルールを守っているという雰囲気であっても、すべての子どもたちが、約束を守っていることを自覚できるように、子どもたちが、なぜ約束を守らなければならないかを考えられるような指導をていねいにしていく必要があると考えています。

家庭での子どもの様子として、学校でも子どもたちに伝え続けている「あはは」に関する「朝ごはんをしっかりと食べること」「早寝・早起きをすること」は、少しではありますが重要度、実現度ともに上がっています。にこにこ集会など、全校で集まったときに、何度も働きかけている成果が見られてきたのではないかと考えます。

学校運営協議会理事会では、規範意識や学力について話し合われました。規範意識を高めるためには、みんなで約束を守ろうという雰囲気の集団であること、そして、学力向上のためには、毎日の授業をみんなで学び合おうとする集団であることが大切です。いずれもより良い集団作りが大切であるといえます。良い集団作りを考えると、「いじめ」は絶対あってはいけないことです。が、「いじめ」を見極めることが難しいのではないかという意見もありました。「いじめ」を防ぐためには、教職員たちが常にアンテナをはり、子どもを見ていくことが大切であるという意見が出されました。

また、スマホや携帯電話についても話題になりました。スマホや携帯電話と学習時間が大きく関わっているということ以外にも、事件に巻き込まれる危険性があることなど、スマホや携帯電話のマイナス面が出されました。大人もスマホや携帯電話についての理解を深めた上で、子どもとスマホや携帯電話の危険性や使い方について、話す時間をもつことが大切だという意見が出されました。